

令和 2 年度各部会年間活動報告

【報告者】

1. 重心・医ケア部会	長瀬	有紀
2. 雇用支援ネットワーク部会	丸山	哲
3. サービス向上部会	新井	尚美
4. 精神部会	横川	真
5. 本人中心部会	綿谷	元恵
6. そだちネットワーク部会	高山	和浩
7. 権利擁護部会	小林	文哉
8. 幹事会	米持	正徳

1. 重心・医ケア部会

【目的】北信圏域に住む医療的ケアが必要な障がい児等とその家族が抱える実態や支援体制の現状と課題を把握し、支援を行う関係機関が連携してその課題解決に取り組むことにより、医療的ケアが必要な障がい児等が地域で安心して暮らしていくことができる体制を構築する。

【主な活動内容・成果】

重心・医ケア部会

- 「医療的ケア児等実態調査」、医療的ケア児に係る資源調査」の結果について共有。また、第6期障害福祉計画に盛り込まれる医療的ケア児等に関わる項目についても共有した。
- 「医療的ケアが必要な人たちの地域生活を支えるために」をテーマに部会内研修会を実施。
- コロナ禍における新たな取り組みとして、今年度最後の部会はYouTube配信による情報共有での開催とした。

地域連携 ～医療との連携～

- スムーズに退院支援が行えるよう、地域の相談窓口、医療・保健・福祉それぞれの役割やつなげるタイミング等がわかるよう、「退院時マップ」の作成に向け検討。①命を守る軸、②生活を支える軸の2軸を大切にたたき台を作成した。

地域課題

- 医療的ケア児が利用できる資源について検討してきた。次期障害福祉計画では、放課後等デイサービス、医療型短期入所を圏域内に1か所整備することを目標としている。また引き続き、訪問入浴等の課題についても検討を進めていきたい。

親の会

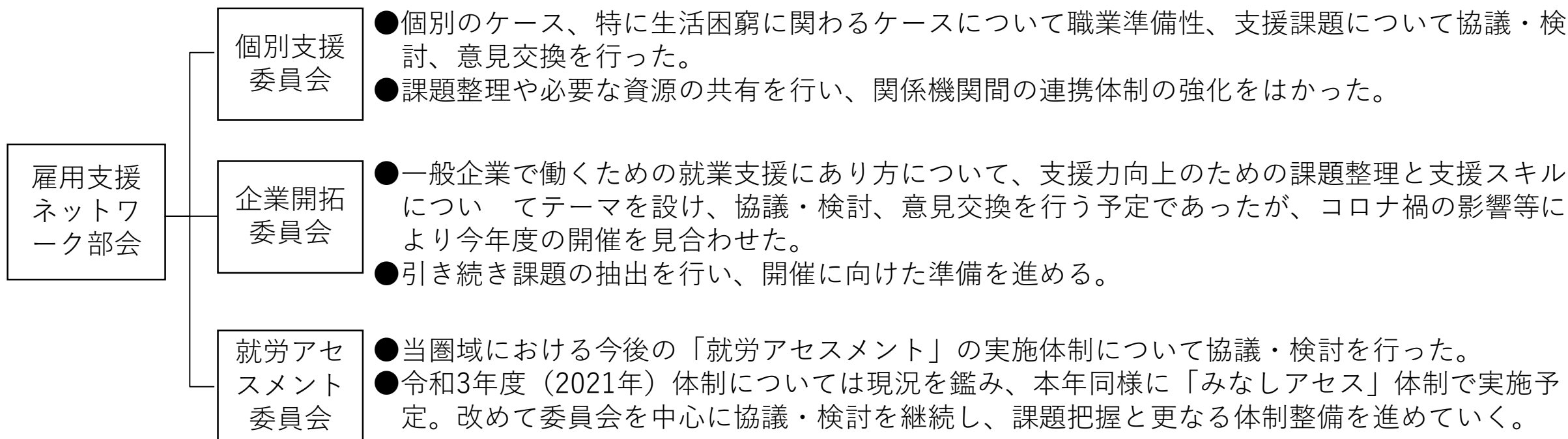
- 重心・医ケア児のご家族が情報共有したり、日々の困り感等が気軽に話したりできるよう親の会を設けていきたいと考えていたが、コロナ禍において集まっていただく事は難しいと判断。今年度については個別の支援会議等の中でニーズを拾っていくこととした。

【来年度に向けて】今年度の活動を土台に、実態調査の結果も踏まえながら、①資源マップの完成と周知、②資源開発に向けた検討、③親御さんの声を吸い上げる取り組みを展開していく。

2.雇用支援ネットワーク部会

【目的】 障がい者の企業への就職と職場定着をより一層進めていくための、関係機関による連携協力体制の構築を目指すことを目的とする。

【主な活動内容・成果】



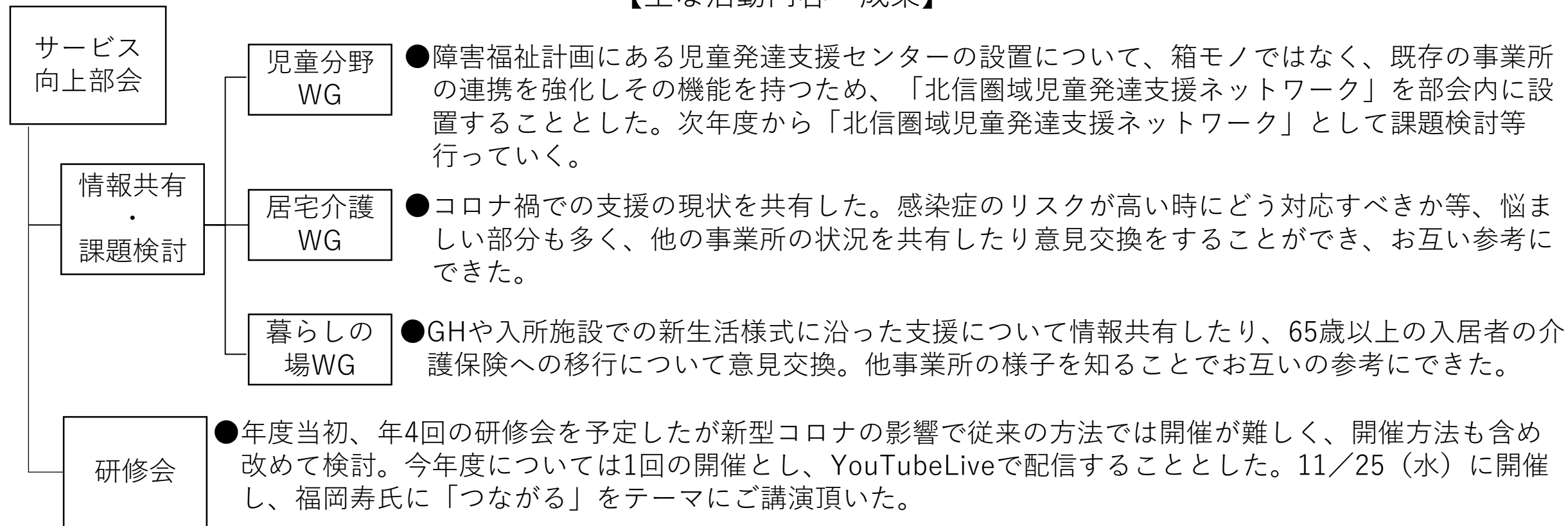
【来年度に向けて】

- ・「就労アセスメント」の在り方や今後の実施体制について、「就労アセスメント委員会を中心とした協議・協力体制」の試行を始めている。今後の活動の展開等については委員会内で協議・検討をふまえ、実施していく。
- ・第6期障害福祉計画をふまえ、一般就労を目指す方々への支援課題の検討や支援スキルの共有等について、委員会活動を通じて継続的な取り組みを行う。

3.サービス向上部会

【目的】地域の支援者の支援力の底上げをめざし、障がい理解や適切な支援ができる人を地域に増やしていく事を狙いとする。また、横のつながりを大切にし、情報共有の中から地域の課題の把握・提案を行っていく。

【主な活動内容・成果】



【来年度に向けて】

現場の悩みや声を共有できるような現場支援者向けの研修会の実施する。また横のつながりを大切にしながら、情報共有や課題検討を継続していく。

4.精神部会

【目的】精神障がいの方が、住み慣れた地域を拠点とし、ご本人の意向に即して充実した生活を送ることができるよう、医療・保健・福祉等で連携して支援が行える体制を構築していく。更に啓発活動等行い、安心して暮らし続けていける地域づくりを目指す。

【主な活動内容・成果】

精神部会

●精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた協議

- ①第1回部会にて「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム」について改めて学習会を実施。
- ②第2回部会にて、医療・保健・福祉、それぞれの関係者が関わっている事例を共有し、チーム支援の大切さを共有できた。
- ③第3回部会にて、ピアサポーター養成についての学習会を実施。講師を招き、ピアサポーターの役割やどのように活躍されているか等を学んだ。今後の検討につなげたい。

普及啓発委員会

- 地域の方に向けた普及啓発活動を行うため、広報紙の作成について検討を行ってきた。①当事者個人の紹介、②地域の相談窓口等資源の紹介、③病気についての紹介の3項目で来年度作成を進める予定。

地域移行支援マニュアル作成委員会

- 支援者向けの地域移行支援マニュアルの作成について検討していたが、病院、地域それぞれにマニュアルができていますので、そこをつなぐツールを検討することとなった。入退院時の情報提供の書式について、相談支援専門員等に意見を聞きながら整えている。

仲間としゃべろう会虹

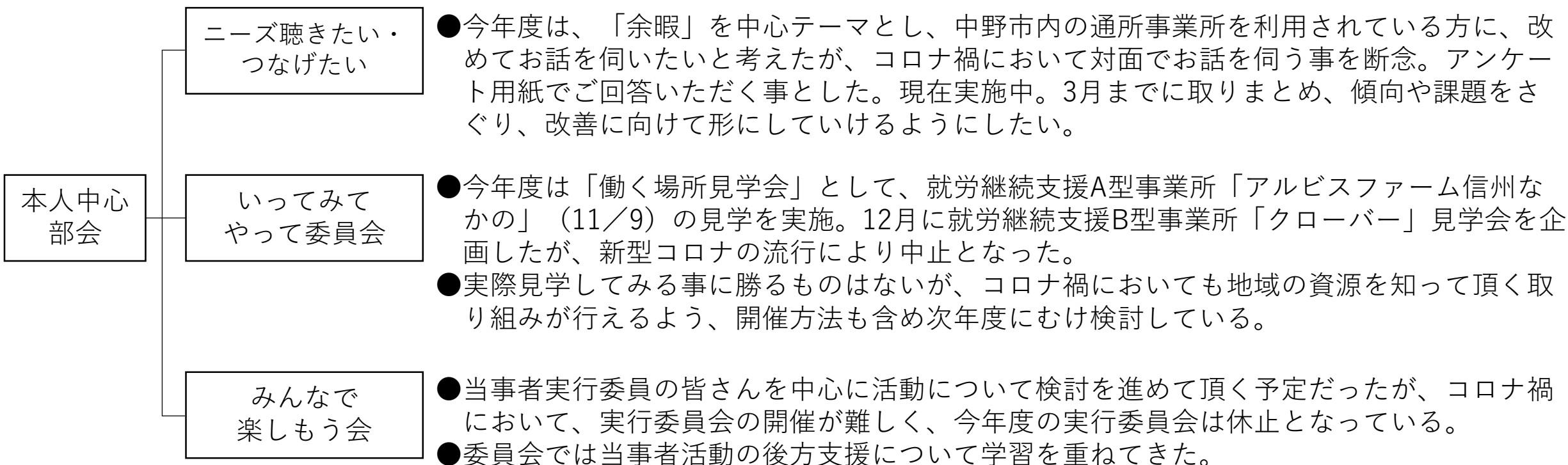
- 当事者の方を中心に、気軽に集まっておしゃべりができる場として開催。月1回、中野会場・飯山会場での隔月開催を予定していたが、新型コロナの感染拡大もあり、安全を最優先し、今年度は休止した。

【来年度に向けて】今年度は普及啓発活動と、地域移行支援マニュアル作成に重点を置くため、新たに委員会を設置した。委員会の活動が途上であることから、来年度もこの2つの委員会活動に重点をおいて活動を継続していく。また、ピアサポーターの養成に関しても検討していけるようにしたい。

5.本人中心部会

【目的】 障がいのある方がこの地域で安心して自発的に生活できるよう、ニーズに沿ったより良いサービスが提供できる地域をつくるために活動する。当事者が積極的に活動できる場を広げ、当事者主体の活動を後方支援していく。

【主な活動内容・成果】



【来年度に向けて】

コロナ禍においても取り組みが進められるよう方法等を検討し、今後も当事者の声が聴けるようにし、そこから部会の活動につなげていく。

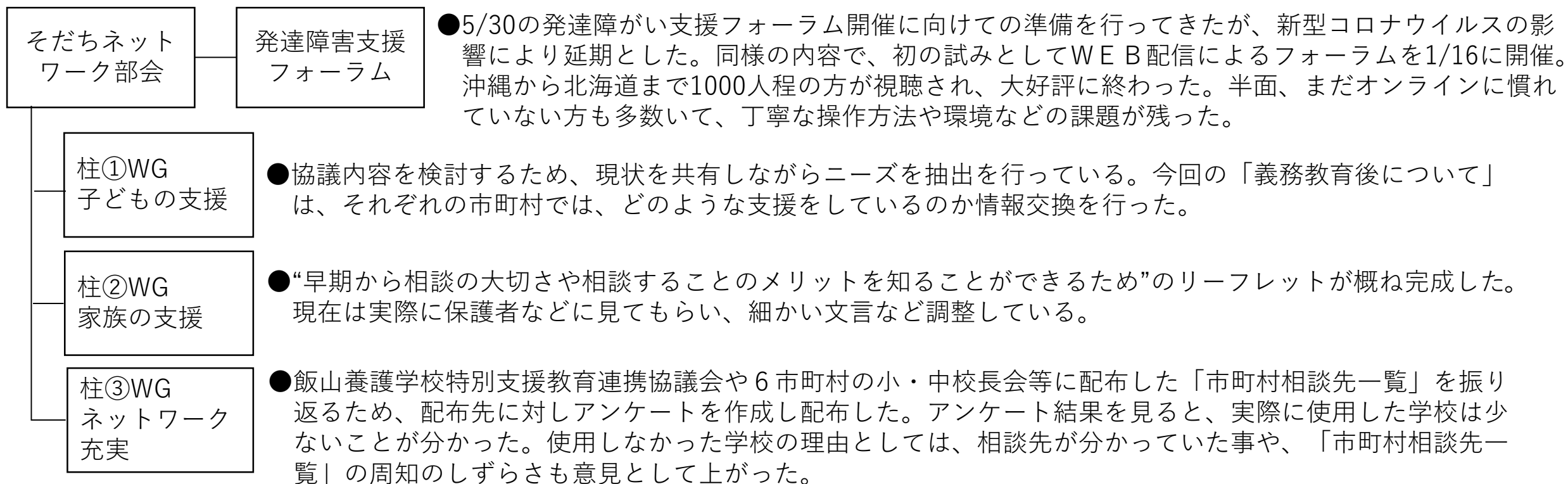
6.そだちネットワーク部会

【目的】 様々な障がいや困り感を持っている子ども及び家族の気持ちに寄り添いながら、子どもや家族を支える地域の関係機関の連携体制を構築していくこと。

～3つの基本的柱～

①子どもの困り感や特性に合わせた支援 ②家族の気持ちに寄り添う支援（障がい受容の伴走者であること）③関係機関のネットワーク機能の充実

【主な活動内容・成果】



【来年度に向けて】

- ・柱②WG：今後は連絡先など市町村ごとの内容を記載し、来年度から配布を始められるよう印刷等進めていく。
- ・柱③WG：アンケートから得られた意見を参考にし、修正を加えて再度「市町村相談先一覧」を配布していきたい。また、義務教育後（15～18歳）のネットワーク構築についても検討を進めていく。

7.権利擁護部会

【目的】障がい者、高齢者等の権利をどう支えていくかについて、幅広い観点から、関係機関の連携協力体制を強化していく中で、誰もが住みやすい街づくりを目指していく。

【主な活動内容・成果】

権利擁護 部会

- 事例検討をGSV（グループスーパービジョン）方式で実施。アルツハイマー型認知症の父と自閉症スペクトラムの長男の2人の生活を継続していくためのアイデアを出し合った。
- 「災害時の避難所における権利擁護」をテーマにグループワークを主にした研修会を部会内で実施。伝達研修をそれぞれの所属先でも行って頂いた。伝達研修も含め出された意見から、今後の提案事項等をまとめていく。
- 長野県権利擁護部会の活動についても共有し、必要に応じて連携が取れるようにしてきた。

啓発研修PJ

- 誰もが見て、聞いて、わかりやすい形で「権利擁護」を伝えられるよう寸劇を活用した出前講座を企画。チラシを作成し周知。依頼も頂いたが、新型コロナの影響で実施できなかった。
- 部会内研修会を企画し、12月の部会で上記の研修会を実施することができた。

成年後見PJ

- 成年後見制度について、相談窓口の方を対象とした研修会を来年度実施したいと考え、内容等検討を重ねてきた。
- 今後、成年後見制度利用促進にかかる中核機関の設置が予定されており、このPJの在り方自体の検討を次年度行っていきたい。

差別解消 運営PJ

- 北信圏域障害者差別解消支援地域協議会とその実務者会議の内容等について、地域の実情を見ながら検討している。今年度は実務者会議の下準備を中心に活動してきた。

北信圏域障害者差別 解消支援地域協議会 実務者会議

- 6・10・2月の権利擁護部会の開催にあわせ開催。実務者会議のメンバーに、過去に相談を受けた中で「障がい者差別にあたる」「合理的配慮にかける」と思われる事例を相談受付票に記入してもらい、記入してみたの感想を頂いた。それをもとに、より使いやすい書式になるよう見直しを行った。

【来年度に向けて】障がい者虐待防止、成年後見制度、差別解消に関する周知・啓発を継続し、支援者等の権利擁護に関するアンテナを高めていけるよう、活動を行う。また関係機関と連携しながら住みやすい街づくりに向けて今後も活動を継続していく。

8.幹事会

【目的】北信圏域の障がい者福祉の現状と課題を踏まえながら、地域に必要とされる取り組みや施策の実現に向けて、さまざまな検討協議を行う。また、協議会が円滑かつ効果的に機能するための検討協議を行う事を目的とする。

【主な活動内容・成果】

幹事会

- 相談支援専門員の活動報告や、各部会、委員会等からの提案・報告を受け、地域の課題について検討を行っている。今年度は特に、新型コロナウイルスに関連した生活面への影響や、北信圏域における就労アセスメントに関する課題、地域生活支援拠点等の整備に係る課題等が検討された。
- 第6期障害福祉計画及び第2期障害児福祉計画の策定を進めてきた。

市町村課題 検討WG

- 幹事会とともに、第6期障害福祉計画及び第2期障害児福祉計画の策定に向け、地域の事業所から意見聴取を実施し、計画を作り上げてきた。
- ケアプラン研究会にて、サービス等利用計画のポイントを学習したり、相談支援専門員と合同のGSVを2回実施し、インフォーマル資源の活用を意識した支援についてアイディアを出し合い学習を深めた。
- 圏域内の相談支援専門員との意見交換会を8・1月に実施。ざくばらんに意見交換しながら、地域の課題や今後取り組んでいきたい事等の共有をした。
- 圏域内の就労アセスメントの現状や今後についての共有、今後配置される主任相談支援専門員の役割の検討等行ってきた。

地域生活支 援拠点等 事業検討会

- 地域生活支援拠点等事業の5つの柱（①相談、②緊急時の受入れ・対応、③体験の機会・場、④専門性、⑤地域の体制づくり）の中で、今年度は特に「体験の機会・場」の整備を進めるため検討を行った。地域移行や親亡き後の暮らしを見据え、一人暮らしの体験ができる場の整備に向け、ニーズ調査を実施。結果を参考に検討を重ね、次年度から事業として実施することとなった。現在準備を進めている。

【来年度に向けて】

来年度は第6期障害福祉計画及び第2期障害児福祉計画のスタートとなる。計画の進捗管理をしながら、各部会等とも連携し、地域課題の検討・整備を行っていく。